

# 株式会社 South wind

ものづくり技術

## 立形マシニングセンタの導入で製造時間の短縮に一定の成果 新たな市場開拓も目指す

### 事業内容 金型・金型関連品の製造・販売を手掛ける しっかりとしたメンテナンス体制が高評価

大手メーカーで金型製作の経験を積んだ、現代表取締役の岩上昌弘氏が、業界に新風を吹き込むとの思いから「South wind=南から吹く強い風」を社名に冠して設立した。

主な事業内容は、プレス金型パーツ及び樹脂金型の設計・製作である。プレス金型パーツは大手自動車メーカー向けのもが多く、樹脂金型はプリンターやロボットアーム、産業機器の外枠向けなど幅広い業種の金型を製造している。現在は、商社経由での販売が大半で、様々な業界からの引き合いがある。

同社の強みは、低価格でも品質を落とさない金型を販売

できることにある。海外の協力工場(会社)で金型を製造することもあるが、最終的な仕上げは国内で行っており、低価格で品質水準を落とさずに納品できる。メンテナンス体制がしっかりしていることも得意先から評価が得られており、創業以来、社内加工においてはクレームが発生していないことも特筆すべき点である。

設立から3年足らずの企業でありながら、これだけの受注を得られている背景には、代表をはじめとする従業員が大手メーカーで培った高い技術力を身につけていることにあるようだ。

### 補助事業 得意先の要求水準の高度化に対応するため 立形マシニングセンタを導入

近年、同社のエンドユーザーである自動車業界において、新車種の立上げに際してはリードタイムが日々短縮されており、金型・パーツ単体での精度・品質が高度化していく傾向にある。具体的には、100分の2mm以下の精度が求められるのと同時に、これまで製造していたものよりひとまわり大きい枠の製造を求められていた。

また、自動車業界だけでなく、年々工作機械の加工スピードは上がっており、コスト低減を図るためにも加工時間の短縮は避けられない課題であった。

従前から保有しているマシニングセンタでは、高精度な製品に対応しにくいほか、1000mmを超えるものは多くの段取りを要し、手間がかかるという問題があった。

そこで、今回の補助事業では、さらなる高速加工を実現し、高品質のパーツを提供できる加工システムを構築するために立形マシニングセンタを導入した。



### 株式会社 South wind

代表取締役 岩上 昌弘  
〒641-0001 和歌山市杭ノ瀬328-3  
TEL: 073-481-2369 FAX: 050-3737-3423  
E-Mail: southwind\_iwg@yahoo.co.jp

〈業種〉金型・金型関連品の製造  
〈設立〉2015年3月2日  
〈資本金〉3,000千円  
〈従業員〉4人

### 成果

## 製品精度の向上 時間短縮のさらなる追求

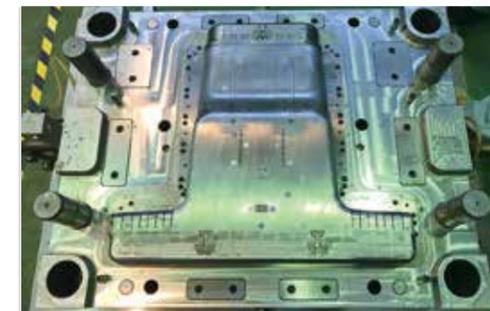
導入した立形マシニングセンタには、機上測定ツール(3次元センサ)が搭載されているため、寸法保証値をより正確な測定データで提供することができるようになった。製品精度の向上を数値で示せることにより、得意先の安心感にもつながっている。

また、以前は1000mmを超える大型のものは、段取りが多く、その分だけ時間がかかっていたが、導入後は1500mmまで対応できるようになり、時間短縮の効果があつた。対応できる受注の幅は広がっており、手応えを感じている。

一方で、今回導入した機械の潜在能力をさらに引き出すためには、さらなるツールの追加購入が欠かせないという。値が張るツールも多く、難しい判断を迫られることもある。同社としては、社員一丸となって製造時間短縮に向け

て試行錯誤を繰り返しており、時間短縮につながるツールがあれば、できるだけ購入する方向で調整している。

「日々、時間短縮を進めていくことで価格競争力をさらに高めていきたい」と、岩上氏は話す。



### 今後の展開

## 販路開拓を進める 代表の経営手腕に注目

現状、大手自動車メーカーをエンドユーザーとしているが、国内すべての自動車メーカーをエンドユーザーとしているわけではない。中期的には、これまでに実績がない自動車メーカーも同社のエンドユーザーとしていきたいとしている。新たな引き合いも増えてきており、今後一層の飛躍が期待される。

さらに、精度面が向上してきたことにより、高精度が求められる福祉・医療分野の樹脂成形金型の製造にも携わって

いく予定である。

ただ、今後受注を拡大していくためには、工場の増設、新設は避けて通れない。工作機械設備が日々進歩していることを考慮すれば、近いうちに新たな設備投資が必要となることが予想される。今回の立形マシニングセンタの導入は、同社を勢いづける契機となったが、今後の舵切りは容易ではなく、代表の経営手腕に注目したい。

